

cloud-all くらうどーる 連載 16th

移行のラストチャンスにスムーズに導く!

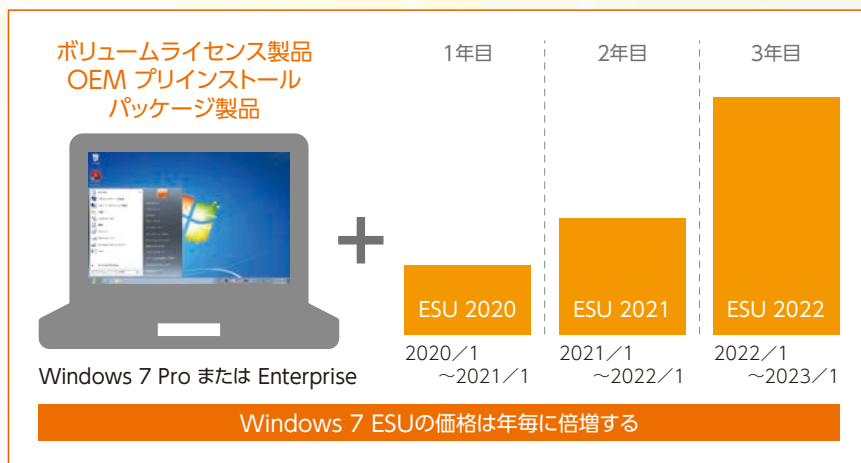
Windows 7サポート終了で注目される ESUを活用した移行方法

2020年1月14日、Windows 7のサポートが終了した。だが、さまざまな理由からサポート終了後も当面の間、Windows 7の環境を維持しなければならないエンドユーザー様は存在する。そこでマイクロソフトはサポート終了後も最大で3年間、延命する道を正式に用意した。今回はこちらの延命策についての疑問に回答したうえで、エンドユーザー様のクライアント環境を最新環境へと移行する方法について紹介しよう。

Windows 7サポート終了の意味と ESUが提供する移行への道

2009年10月にリリースされた Windows 7は、マイクロソフトのライフサイクルポリシーに従い、10年間のサポート(2015年1月までのメインストリームサポートとその後の2020年1月14日までの延長サポート)が終了を迎えた。延長サポートが終了した製品については、今後、セキュリティ更新プログラムが提供されることはない。また、有償のサポートも提供されなくなる。日本時間では2020年1月15日に提供されたセキュリティマンスリー品質ロールアップが、事実上の最後のセキュリティ更新プログラムになる。

そのため、サポートの終了後も Windows 7を使い続けた場合、2020年2月以降は修正されないセキュリティ問題が放置、蓄積されることになり、脆弱性が高まることになる。下位互換性の高いWindowsは新旧のバージョンで共通のプログラムコードを使用している場合があり、最新バージョンのWindows 10で発覚したセキュリティ問題はサポートが終了した



バージョンのWindowsに影響する場合もある。だが、サポートが終了した製品は影響範囲の対象外であり、通常、公表されることはない。

しかしながら、多くの企業にはサポート終了後もWindows 7を撤去できないさまざまな事情がある。例えば、Windows 7でなければ動作しないレガシーシステム(クライアントサーバーシステムのクライアント側アプリケーションなど)やWindows 7でなければ動作しない特殊なハードウェア装置(工作機械など)の存在だ。

マイクロソフトは今回、サポート終了までの移行が間に合わなかった

Windows 7に対する最後の延命策として、サポート終了後も最大3年間、セキュリティ更新プログラムを受け取ることが可能な有償(条件付きで無償)の「拡張セキュリティ更新プログラム(Extended Security Updates、ESU)」を用意した。

ESUをうまく活用することで、エンドユーザー様のクライアント環境を最新環境へと移行する時間的猶予を得ることができるのだ。

まずはESUについての理解を深めるために、Windows 7サポート終了にまつわるよくある質問事項をまとめたQ&Aを用意したのでご参照いただきたい。

Windows 7サポート終了にまつわるQ&A

Q1 現在、使用中のWindows 7 PCをWindows 10にアップグレードできますか？

A. はい。Windows 10を購入してWindows 7からアップグレードすることができます。Windows 7とWindows 10の最小システム要件(プロセッサ速度、メモリ容量、ハードディスク容量)に大きな違いはありません。ただし、パフォーマンスやセキュリティなど、最新のハードウェア機能の利点を得るには、最新モデルにリプレイスすることをお勧めします。また、既存のPCをアップグレードする場合、ハードウェアの経年劣化により故障リスクが高まることにも留意してください。

Q2 Windows 7のサポート終了後、Microsoft Security Essentials(MSE)で保護されなくなるのですか？

A. いいえ。MSEは個人および10台までの小規模ビジネスにおいて無料で利用できる、Windows 7以前のWindows向けのウイルス対策ソフトです。Windows XPおよびVistaに対する保護はすでに終了しましたが、Windows 7上のMSEの定義の更新はWindows 7のサポート終了後も当面、続きます。ただし、MSEのマルウェア対策プラットフォームの更新プログラムは提供されなくなります。なお、現時点で定義の更新の提供終了や保護の終了の時期は示されていません。^{*1}

Q3 Windows 7のサポート終了後はWindows 7を使用できなくなるのですか？

A. いいえ。2020年2月以降のセキュリティ更新プログラムが提供されなくなりますが、ライセンスの使用権が失われることはありません。セキュリティ更新プログラムは、Windows 7 ESUを購入したデバイスに対してのみ引き続き提供されます。ただし、Windows 10プレインストールモデルをダウングレードしてWindows 7を使用している場合、2020年1月15日にダウングレード権が消失し、ライセンス違反状態になってしまうことに注意してください。^{*2}その場合でも、Windows 7 ESUを購入した場合、その期間中、ダウングレード権が付与されます。

Q4 Windows 7 ESUは誰でも購入できますか？

A. はい。Windows 7 ESUの対象OSがインストールされているデバイスごとに購入できます。現在、EA(Enterprise Agreement)契約のWindows 7をご利用中の場合は、ESUをデバイスごとに購入できます。パッケージ製品やOEMプレインストール製品をご利用中の場合は、クラウドー を通じて1デバイスから購入できます。

Q5 Windows 7 ESUの対象エディションを教えてください。

A. Windows 7の場合、Windows 7 ProfessionalおよびEnterpriseが対象です。OSライセンスの種類は問いません。ESUは、2019年7月にサポートが終了したSQL Server 2008/2008 R2、Windows 7と同時にサポートが終了したWindows Server 2008/2008 R2、およびWindows 7ベースの組み込み用OSにも用意されています。

Q6 Windows 7 ESUで提供される更新プログラムとは？

A. Microsoft Security Response Center(MSRC)で深刻度「重大(Critical)」または「重要(Important)」と評価されたセキュリティ問題に対応するセキュリティ更新プログラムです。新機能やセキュリティ以外の更新プログラムは提供されません。なお、Windows 7 ESUで提供されるセキュリティ更新プログラムは、従来の更新プログラムと同じように、Windows Update、Microsoft Update Catalog、およびWindows Server Update Services(WSUS)を通じて提供され、その他の更新管理ツールで配布することもできます。

Q7 Windows 7 ESUでOffice 2010はカバーされますか？

A. いいえ。Office 2010は2020年10月13日にすべてのサポートが終了します。Windows 7 ESUのような延長措置は用意されません。Office 365 ProPlus/Businessのサブスクリプション製品、およびOffice 2013/2016の永続ライセンス製品はESUが有効なWindows 7で引き続きセキュリティ更新を受け取ることができます。

Q8 Windows 7 ESUには技術サポートが含まれますか？

A. いいえ。技術サポートが必要な場合は、Windows 7 ESUとは別に有償サポートを契約する必要があります。Windows 7 ESUを購入していない場合、Windows 7の有償サポートを契約することはできません。

^{*1} 最新バージョンのSystem Center Endpoint Protection(Current Branch)については、Windows 7に対して2023年1月10日まで更新サポートが提供される予定である。System Center 2012/2012 R2 Endpoint Protectionは、2022年7月12日に製品サポートが終了する。

^{*2} Windows 7のサポート終了は、Windows 7/8/8.1プレインストールモデル、およびボリュームライセンスのダウングレード権には影響しない。

クラウドでも購入できる Windows 7 ESU

エンドユーザー様がWindows 7 Professional/Enterpriseのボリュームライセンス製品を利用中の場合、2019年4月からボリュームライセンスサービスセンター(VLSC)にてWindows 7 ESUを購入可能だ。OEMプレインストール製品やパッケージ製品の場合は、2019年12月からクラウドーを通じて1デバイスからの購入が可能になった。

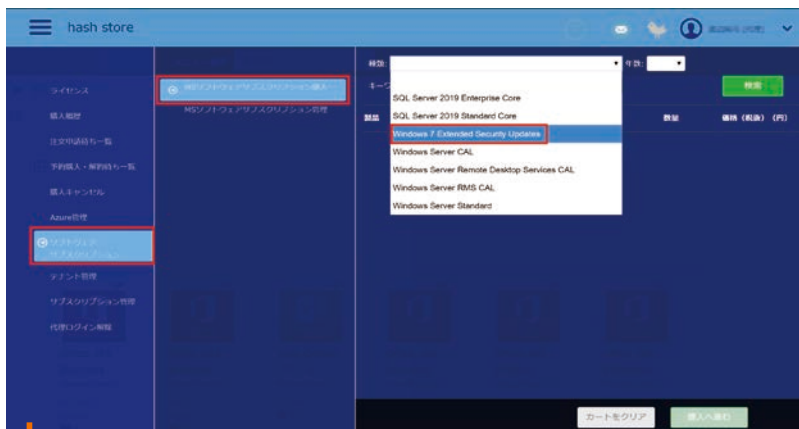
Windows 7 ESUをエンドユーザー様に提案する際の注意点としては、デバイスごと、年単位で購入する必要があることだ。2年目のWindows 7 ESUは1年目のWindows 7 ESUを購入していることが条件になる。そのため、例えば2年目から購入する場合は、1年目と2年目の両方のWindows 7 ESUを購入しなければならない。また、年ごとのWindows 7 ESUの終了日は固定であり、途中から購入したからといって終了日が延長されることはない。

さらに重要な点は、Windows 7 ESUの価格は年ごとに倍増するということだ。Windows 7 ESUを単に3年間延命する目的で購入するにはコストがかかりすぎる。Windows 7 ESUを購入後、段階的かつ速やかに新システムに移行し、Windows 7のデバイスを縮小していくことで、2年目、3年目のWindows 7 ESUのコストを大きく抑えることができるのだ。

ESU付きWindows 7 Enterprise対応 Windows Virtual Desktop

Windows 7 ESUを導入する方法は、実はもう1つある。それは、Windows 7をAzure上で仮想化する

Windows 7 ESUの導入方法



1. クラウドーのストアで代理ログインをする
2. 左側のメニューにある「ソフトウェアサブスクリプション」をクリック
3. 「MSソフトウェアサブスクリプション」をクリック
4. プルダウンから「Windows 7 Extended Security Updates」を選択
5. 「検索」をクリックし、「数量」を選択し、「購入へ進む」より通常の購入手続きをする
6. Microsoft 365 管理センター(<https://portal.office.com/>)へ全体管理者権限を持つID/PWでログイン、MAKキーを取得する。[※]
7. エンドユーザー様はWindows 7の対象デバイスにESUの前提条件となっている更新プログラムをインストールする。少なくとも2019年10月までのセキュリティマンスリー品質ロールアップおよびサービススタックの更新プログラムがインストール済みであれば、すでに前提条件を満たしている。
8. slmgrコマンドを使用してESUのプロダクトキーをインストールし、ライセンス認証(アクティベーション)を実行する。なお、ESUのプロダクトキーは、現在のWindows 7のプロダクトキーを置き換えるものではなく、ESUのライセンス認証IDとして追加され、Windows 7のライセンスとは別に認証される。

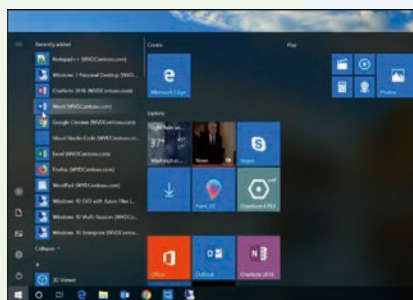
※MAKキーの取得方法の手順は「クラウドサポートセンター」(<https://www.cloud-all.jp/>)を参照。

方法だ。Azure上のWindows 7の仮想マシンを展開すると、無料かつ追加設定なしで3年間のWindows 7 ESUの対象になる。ただし、Windows 7は、クラウドのマルチテナント環境へのホスティングはライセンス上許可されていない。^{※3} 一般向けに唯一許可されているのは、Azureのフルマネージドサービスである「Windows Virtual Desktop(WVD)」を使用した、Windows 7 Enterpriseのデスクトップの仮想化である。

WVDは、Windows 10 Enterpriseのシングル／マルチセッション、Windows 7 Enterpriseのシングルセッション、およびWindows Server 2012 R2以降のリモートデスクトップサービス(RDS)のマルチセッションに対応した、クラウドベースの仮想デスクトップインフラストラクチャ(VDI)である。

クライアントとしてはWindows、Android、iOS、macOS、およびWebブラウザを使用でき、これらのクライアントに対してWindowsのデスクトップ

※3 マルチテナントホスティングの権利は、Windows 10のボリュームライセンスで初めて条件付きで許諾された。



WVDは、最新のWindows 10およびOffice 365に最適化されたクラウドベースのVDI。Windows 7 Enterpriseにも対応。画面はWVD紹介ビデオ (<https://youtu.be/NQFtI3JLtaU>) より

プ環境とOffice 365 ProPlusなどのアプリケーション(RemoteAppプログラム)を提供できる。Windows 10 Enterpriseのマルチセッションサポートは、WVDだけの機能だ。

WVDでホストされるWindows 7 Enterpriseの仮想デスクトップは、自動的に3年間のWindows 7 ESUの対象になる。なお、Windows 7 Enterpriseの仮想デスクトップを展開するためには、Azure MarketplaceのWindows 7 Enterpriseイメージを展開してカスタマイズするか、オンプレミスでWindows 7 EnterpriseのイメージをWVD用に構成してAzureにアップロードして、WVD用のマスターイメージを準備する必要がある。

WVDをエンドユーザー様に提案する際の注意点としては、WVDはAzureのリソースの使用料金だけでは利用できない、ということだ。WVDにアクセスするクライアントデバイスは、下のいずれかのライセンスでカバーされている必要がある。

- Microsoft 365 E3/E5
- Microsoft 365 A3/A5/Student Use Benefits
- Microsoft 365 F1
- Microsoft 365 Business
- Windows 10 Enterprise E3/E5
- Windows 10 Education A3/A5
- Windows 10 VDA per user

ケーススタディ-オンプレミスとクラウドを組み合わせた移行3年計画

特定のハードウェア装置に依存しないレガシーシステムのWindows 7クライアントの移行策として、オンプレミス向けのWindows 7 ESUとWVDの組み合わせは、セキュリティを維持しながら段階的に最新環境への移行を進めることができる現実的なソリューションと言えるだろう。

まず、Windows 7で稼働中のレガシーシステムのクライアント環境をWVDのWindows 7 Enterpriseの仮想デスクトップとして構築、展開する。Azureでは、Windows Server 2008/2008 R2およびSQL Server 2008/2008 R2のESUも無料かつ追加設定なしで提供されるので、これらの環境を利用しているのであれば、クライアントサーバーシステムのサーバー側を含め、すべてをクラウドだけで完結させることも可能だ。

そうした上で、オンプレミスの

Windows 7クライアント環境を最新のWindows 10にアップグレードまたはリプレースし、レガシーシステムをWVDの仮想デスクトップから利用可能にする。一気にアップグレードまたはリプレースするのは困難かもしれないが、段階的に移行を進め、移行待ちのWindows 7クライアントに関してはオンプレミス向けのWindows 7 ESUを購入してセキュリティを維持できる。最新のWindows 10のデスクトップ環境や最新のアプリケーションをWVDからWindows 7クライアントに提供することで、移行前と移行後の両方のクライアントで実質的に同じ業務環境を実現することが可能だ。

Windows 7 ESUの3年の猶予は、本当に最後の機会となる。紹介したWVDは、働き方改革や災害時のテレワーク環境など、クラウドの利点を生かした業務環境の実現も可能である。これは、Windows 7移行のための一時的な利用で終わらせるのではなく、新システムの標準のクライアント環境としての利用を視野に入れてエンドユーザー様に提案することもできるだろう。

WVDを利用して最新環境とレガシー環境を共存しながら移行

